２０２２年度事業報告

１．一般報告

［1］会員移動報告

表－１ 会員移動状況 （2023 年 2 月 21 日現在）

会員種別		2021 年度（第 3 回理事会）会員数	2022 年度（第 3 回理事会）			
			入会者数 復活者数	退会者数 停止者数	転格増減数	会員数
個人会員	個人正会員	3,964	273	−221	0	4,016
	特別会員	64	0	0	0	64
（小計）		4,028	273	−221	0	4,080
賛助会員		164	8	−12	0	160
会員合計		**4,192**	**281**	**−233**	**0**	**4,240**
学生会員		1,063	1,214	−571	0	1,706
購読会員		49	2	−4	0	47

表－２ 本支部別正会員、賛助会員数内訳 （2023 年 2 月 21 日現在）

会員種別		北海道	東北	関東	東海 北陸	関西	中国 四国	九州	本部	会員種別合計
個人会員	個人正会員	173	249	1,690	410	610	302	581	1	4,016
	特別会員	3	2	37	4	6	5	7	0	64
（小計）		176	251	1,727	414	616	307	588	1	4,080
賛助会員		11	11	73	14	25	16	10	0	160
本支部別会員合計		**187**	**262**	**1,800**	**428**	**641**	**323**	**598**	**1**	**4,240**
学生会員		48	112	602	160	236	377	171	0	1,706
購読会員		0	4	26	5	7	3	2	0	47

［2］2022 年度定時総会

日　時：2022 年 5 月 31 日（火）午後 3 時～4 時

場　所：メルパルク東京

出席者：2,575 名（議決権をもつ正会員 3,958 名に対し本人出席 22 名、委任状による出席 2,553 名）

議　長：浦江真人

議　案：第１号議案　2021 年度事業報告承認の件

第２号議案　2021 年度収支決算報告書承認の件

以上の議案は、原案通り承認された。

報　告：１．2022 年度事業計画に関する件、２．2022 年度収支予算に関する件

［3］役員及び委員会委員長（敬称略）

会 長 ・代表理事	浦江真人
副会長・代表理事	生島宣幸
副会長・理　　事	松岡宏幸
副会長・理　　事	森谷靖彦
専 務 理　　事	前田伸子
理　　事	谷藤正樹、橋本真一、宮川　剛、嶋田晃一、杉田　洋、柳　泰彦
	志手一哉、金多　隆、小山明男、志岐祐二
理 事 ・ 支 部 長	北 海 道／富田克己
	東　　北／神部禎三
	関　　東／皆銭宏一
	東海北陸／山田　治
	関　　西／渡邉浩文
	中国四国／林　康文
	九　　州／小山田英弘
監　　事	高松隆夫　　涌井英雄
常置委員会委員長	事業計画委員会／森谷靖彦、（副委員長）谷藤正樹
	会員委員会／橋本真一　　広報委員会／宮川　剛
	人材育成委員会／嶋田晃一　　教育委員会／杉田　洋
	ＰＣＭ委員会／柳　泰彦　　情報委員会／志手一哉
	国際委員会／金多　隆　　環境委員会／小山明男
	評価評定委員会／志岐祐二　　積女 ASSAL 委員会／前田伸子

評議委員会等

（1）建築コスト管理士

建築コスト管理士評議委員会委員長／田村誠邦（(株) アークブレイン代表取締役）

（2）建築積算士

建築積算士評議委員会委員長／枝広英俊（芝浦工業大学名誉教授）

（3）建築積算士補

建築積算士補評議委員会委員長／三原　斉（ものつくり大学 技能工芸学部建設学科教授）

（4）特別委員会

ペリカン推進委員会委員長／松岡宏幸（副会長）

［4］理事会開催概要

今年度は理事会を書面で2回、会場で3回、臨時に2回実施して審議を行なった。
主な審議事項は以下の通りである。

理事会（書面）
（1）2022 年4 月1 日付け会員数の承認の件

理事会（書面）
（1）2021 年度事業報告書の承認の件
（2）2021 年度決算報告書の承認の件
（3）2022 年度役員賠償責任保険契約の承認の件

理事会（第1回）
2022年5月31日(火)　会場：メルパルク東京 3階 牡丹の間
（1）会員入退会承認の件
（2）2022年度定時総会の件
（3）理事会等開催日程の件
（4）今後の新型コロナウィルス感染症対策の件
（5）本部規程改定の件
（6）委員会委員の件
（7）(一財) 建築コスト管理システム研究所各委員会委員の件
代表理事、業務執行理事活動報告

理事会（臨時）
2022年9月13日(火)　会場：オンラインによる会議
（1）資格試験特別措置規程追加の件
（2）書籍販売要領の件

理事会（第2回）
2022年10月4日(火)　会場：ビジョンセンター田町 オンライン併用
（1）会員入退会承認の件
（2）新積算士ガイドブック査読委員会承認の件
代表理事、業務執行理事活動報告

理事会（臨時）
2022年11月29日(火)　会場：当協会２階会議室およびオンライン併用
（1）役員候補者選任規程(2023～2024年度)承認について

理事会（第3回）

2023年2月21日(火)　会場：ビジョンセンター田町２階会議室

（１）会員入退会承認の件

（２）2022年度事業報告（案）の件

（３）2022年度決算見込みの件

（４）2023年度事業計画（案）の件

（５）2023年度予算（案）の件

（６）2022年度チャレンジ事業報告の件

（７）2023年度チャレンジ事業新規申請の件

（８）建築コスト管理士規程および細則改定の件

（９）会長表彰（案）の件

（１０）役員賠償責任保険継続契約の件

代表理事、業務執行理事活動報告

［5］正副会長会議開催概要

2022年度は、毎月１回開催した。

理事会の議案や常置委員会への諮問・検討結果について、また各事業の執行状況等について意見の交換と調整を行い、会務の円滑な運営や事業執行の進展等を図った。

［6］建築コスト・建築積算教育の実施

建築コスト・建築積算教育事業として次の通り実施した。

（1） eラーニングセミナー　　**（単位：名）**

部署名	名称	期　間	開催地	受講者
本部	建築コスト管理士向け積算講座	2022年4月1日～2023年3月31日	全国	12
	建築積算士補向け積算実技講座	2022年4月1日～2023年3月31日	全国	73
	新☆建築コスト管理士ガイドブックによるコストマネジメントWebセミナー	2022年9月1日～10月22日	全国	99
関西	建築積算士ガイドブック講習会	2022年9月20日～10月22日	全国	89
計				273

（2）入門教室・積算学校　　**（単位：名）**

部署名	名称	開催日	開催方法	受講者
本部	2022年度 建築積算学校	2022年8月9日 ～11月22日 全28回	Web	125
東海北陸	「建築積算入門」集中講座	2022年5月26日	Web	86
計				211

（３）講習会　　**（単位：名）**

部署名	名称	開催日	開催方法	受講者
本部	中大規模木造建築コストマネジメント・ガイドブック講習会	2022 年 8 月 4 日	Web	191
	積女 ASSAL Web 講習会（第 1 回） Web マーケティング講座、構造積算の基礎	2022 年 11 月 19 日	Web	65
	積女 ASSAL Web 講習会（第 2 回） 公共建築工事の積算における最近の動向、仕上積算の基礎	2022 年 12 月 10 日	Web	65
	建築積算士二次試験から学ぶ 『建築積算実務』セミナー	2022 年 12 月 21 日	Web	123
	ＢＳＩＪ情報委員会シンポジウム	2023 年 2 月 28 日	ハイブリッド （建築会館）	115
北海道	建築専門用語講座	2022 年 10 月 4 日	Web	77
	2022 年度「 若手建築技術者育成実務講座」	2022 年 11 月 8 日～ 11 月 24 日(6 日間)	Web	50
東北	建築数量積算基準セミナー	2022 年 9 月 14 日	会場(秋田)	10
	鉄骨積算入門講座	2022 年 11 月 26 日	Web	48
	建築積算実技講習会（2 日間）	2023 年 1 月 7・8 日	会場(仙台)	9
	実践鉄骨数量積算講習会	2023 年 2 月 22 日	会場(秋田)	14
関東	第 1 回ポケットセミナー(再講習) 『建築積算で扱うコンクリートについて』	2022 年 6 月 29 日	Web	67
	第 2 回ポケットセミナー(再講習) 『建築市場で木造化が進む社会的背景と最近の事例、今後の課題』	2022 年 7 月 25 日	Web	60
	第 3 回ポケットセミナー(再講習)は、開催していない。			
	第 4 回ポケットセミナー 『ランドスケープデザイン-さまざまな価値をつなぐために。歴史をつなぐ/風景をつなぐ/まちとつなぐ/ 緑をつなぐ つなぐ/ 匂いをつなぐ』	2022 年 9 月 14 日	Web	44
	第 5 回ポケットセミナー 『積算で気になる鉄骨造設計のポイント』	2022 年 10 月 26 日	Web	150
	第 6 回ポケットセミナー 『FM の視点から 2 話ー「ブリーフィング（要求条件作成）と LCC（ライフサイクルコスト)」』	2022 年 11 月 9 日	Web	34
	第 7 回ポケットセミナー 『ＣＭ （コンストラクションマネジメント）におけるコストマネージメント』	2022 年 12 月 21 日	Web	81
	鉄骨工事ガイドブック講習会	2023 年 1 月 19 日	Web	86
	建築改修工事の積算講習会	2023 年 2 月 2 日	Web	103

東海北陸	建築積算実技 DVD・e ラーニング講習会	2022 年 12 月 24 日	Web	27
関西	積算チェックポイント	2022 年 7 月 26 日	Web	294
	知のシリーズ第 11 弾（SDG s）	2022 年 11 月 22 日	Web	63
	建築積算実技講習会	2022 年 12 月 10・17 日	Web	30
	建築ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄにおけるｺｽﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄと概算	2023 年 3 月 23 日	Web	237
中国四国	自分でもできるか？概算	2022 年 6 月 10 日	Web	81
	「見積と積算にチャレンジ」	2022 年 7 月 8 日	Web	59
	自分でもできるか？概算(再講習)	2022 年 10 月 22 日	Web	29
	「見積と積算にチャレンジ」(再講習)	2022 年 11 月 19 日	Web	15
計				2, 227

（4）講師派遣

部署名	派遣先
本部	積水ハウス（株）
北海道	建設業新入社員研修会（札幌・稚内）
関東	（株）イリア社員研修会
	建築積算研修
	公共建築工事積算研修
	実務研修（体験実務コース）「まちづくり政策科」
東海北陸	愛知県技術者研修会　営繕行政基礎講座（建築積算）
	ジェイアール東海コンサルタンツ（建築積算の実技）
	岐阜県建築士会・岐阜県建築士事務所協会（改修工事の積算）
関西	近畿大学特別講義（建築積算～現在の積算・これからの積算）
中国四国	鳥取県建設技術センター（建築積算の初歩講座）
九州	宮崎県建設技術センター「宮崎県 建築工事積算研修」
	長崎県建設技術研究センター「長崎県 建築工事の積算演習」
	大分県土木建築部建築住宅課 第 9 回専門技術研修「建築積算研修」
	熊本県建築士事務所協会「建築積算講習会」

［7］その他の事業

（1） 建築積算に関する情報サービス等

イ．会誌「建築と積算」編集・発行（発行部数：4, 800 部／季刊）
ロ．ホームページによる情報提供
ハ．支部報の発行
ニ．メールマガジンの発行（関東支部、中国四国支部）

２．事業報告

２０２２年度も、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を払拭することが出来ず感染防止対策しつつ協会活動を行った。その中で、最重要ミッションである資格認定試験は、実施することができた。

また、主な委員会議および講習会は、非接触型のオンラインセミナーが定着してきたが、会場とオンラインのハイブリッド形式の講習会も開催されはじめた。

８月には、「中大規模木造建築のコストマネジメント・ガイドブック」のオンラインセミナー、２月には「ＢＳＩＪ情報委員会シンポジウム」のハイブリッド形式の講習会が開催され、多くの方々が視聴ならびに参加されました。

積算学校は、昨年に引き続き全支部一体となって、全国オンラインでの開催が実現できた。

建築資材および労務費高騰等で、建築コストに関連する認識が高まり、当協会資格の建築コスト管理士、建築積算士の受験者数が増加しました。

また、２０２５年５０周年記念大会の準備委員会を招集し、２０２３年実行委員会への準備を始めた。具体的な活動については、以下に展開した。

[１] 人材の育成

昨年同様、資格認定試験を最重要ミッションとし、感染防止対策のもとに実施することが出来た。また、コロナ禍の中で蓄積したオンラインセミナーのノウハウを活用して、全支部で活発に講習会を開催することができた。さらに、会場による対面式とオンラインを融合させたハイブリッド形式の講習会を進めることができた。

（１）学校教育

学校教育は、授業および試験への影響は少なからずあったが、学校への出前講座も徐々に実施された。建築積算士補認定試験は、認定校とのコミュニケーションに留意し、継続的なサポートを行うことにより、昨年度同様、堅調に実施できた。

また、学生会員登録者は、認定校での建築積算士補受験申込時の促進活動により、定着してきた。

（２）社会人教育

建築コスト管理士および建築積算士一次試験受験者を主な対象として、講義動画によるｅラーニング方式（新☆建築コスト管理士ガイドブック講習会および建築積算士ガイドブック講習会）を、９月と１０月に開催した。また、建築積算士二次試験受験者を主な対象として、積算実技講習動画によるｅラーニング方式、講師の生ライブによる知識補強セミナーを組み合わせたオンラインセミナーを、１１月に開催した。

また、企業向けの社内講習用にも、講義動画ｅラーニング方式（建築積算士ガイドブック講習会ならびに建築積算実技講習）を提供した。

昨年度に引き続き、ビジネススキルのレベルアップを目的に、心の知能指数と言われる「ＥＱ（Emotional Intelligence Quotient)」に関するオンラインセミナーを開催したが、今年度は、新規受講者用と昨年度受講者の要望による継続受講者用と２通り開催した。

（３）資格認定事業

昨年度に引き続き、制約の中、建築コスト管理士、建築積算士、建築積算士補の資格認定事業に焦点を絞り、感染防止対策をして試験を実施した。結果は、コロナ禍にも関わらず、多くの資格者が誕生した。

（４）ＣＰＤ

当協会のＣＰＤ（継続能力開発）制度は、会員および資格者を対象としている。そのなかで、建築コスト管理士は、ＣＰＤ単位取得が資格登録更新の必要条件となっている。
今年度も、オンラインセミナーの開催が中心となりＣＰＤ単位を提供した。

（５）ｅラーニング等

当協会は、建築コスト管理士および建築積算士一次、二次試験受験者を主な対象とした講義動画のよるｅラーニング方式を活用している。また、建築積算士更新講習をｅラーニング方式に変更し、ＤＶＤ視聴や会場受講といったオプションも揃え、受講者の利便性を図っている。また、パソコンだけではなく、スマートフォンやタブレット端末の使用も可能にしている。
この方式は、時間を有効に活用できると受講生に好評だった。

[２] 調査研究の充実と情報発信の促進

コストマネジメント能力向上を目指し、当協会出版のＰＣＭシリーズを活用した講習会を順次展開しているが、昨年度に発刊したＰＣＭシリーズＸ「中大規模木造建築のコストマネジメント・ガイドブック」の講習会を８月にオンラインで開催し、２００名あまりの参加があった。

木造に関する数量基準および内訳書書式については、当協会も参加している官民合同の「建築工事積算研究会」で検討、作成が勧められていて、２０２３年度には公表予定です。

ＰＣＭシリーズⅡ「建築積算士ガイドブック」の改訂については、ＢＩＭ、木造、解体等も追加され、執筆者による最終原稿確認を終了した。

ＰＡＱＳ（アジア太平洋ＱＳ会議）は、９月にシンガポールで開催され５名が参加した。会誌「建築と積算」と「けんせき」新春号に参加報告結果が掲載されたが、改めて報告会を開催する準備を進めている。

国土交通省主催の「建築ＢＩＭ推進会議」に参画するとともに、下部組織の「部会４」として、分類体系の整備、積算手法の標準化、コストマネジメント手法の確立をテーマに、情報委員会内に「ＢＩＭを活用した積算・コストマネジメントの環境整備協議会（略称：ＢＳＩＪ協議会)」を設置しているが、関連機関・団体と連携して建設情報分類体系と概算手法についての検討を更に進めた。

情報委員会にて、コストマネジメントへの活用という視点から、ＢＩＭについての多角的な研究を

進め、今年度新たに設備における既存の建設情報分類体系の事例収集と建設情報分類体系を用いたコスト概算手法の整理に取り組み、英国の建設情報分類体系「Uniclass」の翻訳と改訂部分の更新、BIMライブラリ技術研究組合（建築 BIM 推進会議部会２）より借り受けた「S3」モデルの部分別内訳項目と Uniclass の対応表作成と対応表を活用したコスト概算手法の整理も行った。

環境委員会では、国連全参加国が推進している「ＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)」に貢献する当協会の実行計画を進めた。

ＬＣＡ（Life Cycle Assessment：環境影響評価)」における評価手法について継続して研究を進めている。

会誌「建築と積算」は、特集記事の年間テーマは「未来予想図Ⅱ」として企画を進めた。

[３] 評価評定および相談事業の推進

事例報告その５が１月に開催された。今回は本部、支部から事例が説明された。

建築コストの諸問題に関して、評価評定・相談事業を推進することは、第三者性の高い公益社団法人としての社会的使命であり、また、資格者の活躍を社会へアピールするためにも有効であると位置づけている。

本部においては、工事費の単なるコスト検証だけではなく、価格変動額（物価スライド）の妥当性検証等より複雑で多様なマネジメントを要求される依頼が増加している。このような難易度の高いコストマネジメントに対応できる人材の確保育成および運営組織については継続課題とした。また、各支部の受託環境の整備と必要な人材の育成についても引き続き検討していく。

[４] 持続可能な財務基盤の構築

コロナ禍において、活動内容に様々な制約を生じているが、新しい環境に適応した公益社団法人として最適な３年サイクルのビジネスモデルを検討しているが、確立までには更なる改善が必要である。

建築積算士の建築コスト管理士へのステップアップを促進し、会員化による各年収支構造の平準化を目指しているが、現時点では早期の改善は見通せていない。

全支部に導入した予算管理システムにより、的確な予算設定と収支管理の実施が可能となり、収支バランスは改善傾向にあるが、今年度も厳しい環境での決算となった。来年度もこの環境が継続すると予測されるため、更なる収支改善努力を継続する。支部交付金のチャレンジ事業の活動期間が短いと支部から要請があり、次年度以降１年間と２年間の選択制に変更した。

[５] 協会のブランディング

当協会のブランディングは、単なるＰＲではなく、協会にとっての重要な相手（法人、個人）に協会の特徴を明確に示し、相手先の関心を高めると同時に信頼関係を築き、協会の良き理解者となってもらうための活動であり、「ペリカン大作戦」と名付けて、２０１１年度から本部・支部で企業・機関・団体への訪問を展開している。

今年度も、昨年度に引き続き対面活動が制約されたが、企業訪問等の活動再開に向けて、準備を進めた。

[６] 会員の増強

新規会員を獲得するために、入会キャンペーンを展開した。

学生会員制度の刷新により、学生会員が定着してきた。更に、学生会員の積算士資格取得、正会員増強につながる仕組みの検討を進めた。リクルート情報については、会員および賛助会員に対し、採用情報の提供を呼び掛けた。

積女ＡＳＳＡＬ委員会が、オンラインセミナーを開催した。セミナーには、カンボジア、オーストラリア、アメリカからの参加者があり、国際的な交流が出来た。また、参加者の半数が男性であり、引き続きの参加を期待したい。

会誌「けんせき」の秋号から積算ＡＳＳＡＬだよりの掲載を開始した。新役員の紹介に引き続き、建築積算、コスト関連に携わる積女を紹介している。自薦、他薦は問いませんので是非、原稿をお寄せいただきたいと呼びかけた。

２０２２年度事業計画項目と担当委員会

[１]事業計画委員会

（１）財政安定への施策についての検討開始

（２）Web 決済の試験的導入

（３）ＢＣＰの検討に着手

[２]会員委員会

（１）入会キャンペーンを継続し、会員の増強を図った。

（２）事業計画委員会との連携の検討を行った。（会員向けスマホサービス等）

（３）学生会員へのサービス向上のため、リクルート情報の提供を開始した。

[３]広報委員会

（１）「中大規模木造建築のコストマネジメント・ガイドブック」講習会の記者会見開催し、メディアへの対外広報を進めた。

（２）会誌「建築と積算」コンテンツの継続的なレベルアップを図った。

[４]人材育成委員会

（１）感染防止対策を徹底し、資格認定試験を確実に実施した。

（２）本支部一体となり、オンラインの積算学校を実施した。

（３）オンラインセミナーを積極的に推進した。

① 中大規模木造建築のコストマネジメント・ガイドブック講習会開催

② 新☆建築コスト管理士ガイドブック講習会開催

③ 建築積算士ガイドブック講習会開催

④ 建築積算実技講習開催

⑤ 保有する講習動画の効果的活用

[５]教育委員会

（１）認定校への授業・試験計画アンケートと試験実施へのサポートを行った。

（２）認定校での建築積算士補受験申請時に、学生会員コンテンツの追加により学生会員登録者が、大幅に増えた。

[６]ＰＣＭ委員会

（１）「建築積算士ガイドブック」査読委員会を設立した。

（２）「建築積算士ガイドブック」執筆者依頼と最終原稿確認をした。

[７]情報委員会

（１）ＢＩＭ活用に関する研究を進め、

① 今年度新たに設備における既存の建設情報分類体系の事例収集と建建設情報分類体系を用いたコスト概算手法の整理に取り組み

② 建設情報分類体系の翻訳と改訂部分の更新、

③ 建設情報分類体系の対応表作成と対応表活用したコスト概算手法の検討を行った。

◇建築ＢＩＭ推進会議および建築ＢＩＭ環境整備部会へ参画した。

◇建築ＢＩＭ推進会議の部会４として「ＢＩＭを活用した積算・コストマネジメント環境整備協議会（ＢＳＩＪ協議会)」を開催し、分類体系とコストマネジメントの標準化について認識を共有した。

（２）第２回情報委員会にて「米国 Master　Format と日本の仕様分類体系について」の講義を開催した。

[８]環境委員会

（１）当協会におけるＳＤＧｓへの実施計画の検討を進めた。

[９]国際委員会

（１）ＰＡＱＳ国際会議（シンガポール）へ参画した。

（２）ＩＣＭＳ３の情報を入手して翻訳や普及等の対応を検討した。

[10]評価評定委員会

（１）事例報告その５を開催。本部、支部が事例報告をした。

（２）支部における人材育成と運営組織について検討を進めた。

[11]積女「ＡＳＳＡＬ」委員会

（１）初めてのオンラインセミナーを開催した。（１１月・１２月）

（２）会誌「けんせき」に積女ＡＳＳＡＬだよりの掲載を開始した。

【特別委員会】

[1]ペリカン推進委員会

（1）オンラインを駆使してのペリカン活動についてのアイデアについて検討した。

（2）ペリカングッズ（企業別資格者数調査票等）を共有した。

[2]５０周年記念大会準備委員会

（1）大会テーマ・サブテーマ（案）の立案

（2）会場候補地の選定（案）

（3）全体スケジュール（案）の立案

４．建築コスト管理士審査・証明事業

［1］関係委員会活動報告

建築コスト管理士評議委員会	学識経験者などから構成する委員会は、2022 年度の試験合格者に関する事項、認定事業の事務に関する基本的事項について審議を行い、認定事業の厳正かつ公正な運営を図った。
試 験 委 員 会	試験委員会は、試験の出題方針の検討と筆記試験、問題の作成、校正並びに合格基準点(案)の作成、答案の採点などの活動をした。

［2］試験状況

実施日：2022 年 10 月 23 日（日）
試験地：札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡、鹿児島、沖縄（9 都市 9 会場）
実受験者数: 288 名、合格者数 138 名

［3］資格更新

規定の BSIJ・CPD 単位取得による更新対象者人数：272 名
更新予定者：186 名（登録証期限は 6 月 30 日）

表－1 建築コスト管理士支部別内訳　（2023 年 4 月 1 日現在）単位：名

支　部	北海道	東北	関東	東海北陸	関西	中国四国	九州	合計
2023 年 4 月	61	88	901	138	264	115	168	1,735
2022 年 4 月	58	85	847	122	250	105	165	1,632
増減	+3	+3	+54	+16	+14	+10	+3	+103

５．建築積算士審査・証明事業

［1］関係委員会活動報告

建築積算士評議委員会	学識経験者などから構成する委員会は、2022 年度の試験合格者及び更新講習修了者について、また認定事業の事務に関する基本的事項について審議を行い、認定事業の厳正かつ公正な運営を図った。
試 験 委 員 会	試験委員会は、建築積算士試験、建築積算士一次試験・二次試験の出題方針の検討と試験問題の作成並びに合格基準点（案）の作成に向け活動した。

［2］試験状況

実施日：（一次・学科）2022 年 10 月 23 日（日）
（二次・実技）2023 年 1 月 22 日（日）
試験地：札幌、仙台、東京、名古屋、金沢、大阪、岡山、広島、福岡、鹿児島、沖縄
（11 都市 12 会場）
受験者数および合格者数
一次（学科）試験／実受験者数：390 名、合格者数：223 名
二次（実技）試験／実受験者数：778 名、合格者数：452 名

［3］資格更新

更新講習実施方法／e ラーニング、又はそれに代わる方法(DVD 視聴等)
更新講習受講期間／2022 年 7 月 1 日～11 月 30 日迄の約 5 ヶ月間
受講対象者数：2,687 名 、受講申込者数：1,916 名
実受講修了者数：1,908 名（e ラーニング 1,523 名、DVD 視聴 380 名、ミニ会場 5 名）
更新登録者数： 2,256 名（建築コスト管理士を併せもつ更新者 348 人を加算）

表－2 建築積算士支部別内訳 （2023 年 4 月 1 日現在）単位：名

支　部	北海道	東北	関東	東海北陸	関西	中国四国	九州	合計
2023 年 4 月	406	736	4,099	1,322	1,909	943	1,688	11,103
2022 年 4 月	397	712	3,962	1,299	1,846	936	1,635	10,787
増減	+9	+24	+137	+23	+63	+7	+53	+316

※更新講習未受講につき、1 年間の資格停止者は上記の人数に含まれておりません。

6．建築積算士補審査・証明事業

［1］関係委員会活動報告

建築積算士補評議委員会	認定校に関する事項、試験合格者に関する事項、その他認定事業の事務に関する基本的な事項について審議を行い、認定事業の厳正かつ公正な運営を図った。（15 回開催）

［2］試験状況

試験実施校数：62 校　　受験者数：2,434 名　　合格者数：2,026 名

［3］資格更新

※2018 年度より資格登録有効期間が 3 年間から 10 年間に変更され、当年度は更新なし。

表－3 建築積算士補支部別内訳 （2023 年 4 月 1 日現在）

支　部	北海道	東北	関東	東海北陸	関西	中国四国	九州	合計
2023 年 4 月	552	324	3,873	1,687	1,464	1,180	1,552	10,632
2022 年 4 月	515	224	3,460	1,544	1,242	1,011	1,406	9,402
増減	+37	+100	+413	+143	+222	+169	+146	+1,230